

半導体業界のライオンズ・シエアーを目指して

凛然として神楽坂からの挑戦

アンカー・ビジネス・シス
テムズ株 代表取締役社長

永田 隆一



— 14 —

パワー・ハウス(最強)の作り方

『攻撃は想像力、守備は組織力。そしてどちらも実戦を通して磨かれていく』

ジコが、鹿島アントラーズにいたころの言葉です。

当時、装置メーカーで働いていた私は、技術・営業・マーケティングは想像力、製造・ロジスティック・フィールドエンジニアは組織力、

そしてどちらも実戦で磨かれていくと考えました。

さて、競争力があり日々成長を続けて、かつ結果を出せるパワー・ハウス(最強チーム)について考えてみたいと思います。

参入市場(ドメイン)の性質や、そのライフサイクルにおける段階(フェーズ)

Standards(優れている)

③ Meets Requirements (要求を満たす)

④ Needs Improvement (改善が必要)

⑤ Unacceptable (受け入れられない)

『個人の希望を共有する』
組織内の個人は、誰でも将来のポジションに対する

希望を持っています。

① 自分のやりたいこと

② 自分の出来ること

③ 自分がしなければならぬこと

この三つがなかなか重ならないのが現実です。しかし、組織が、個人とこの三点についての認識を、会話を通して定期的に共有することは長期的にとても重要なことでもあります。

組織力の三要素のKSAは、次の三つです。

① Knowledge (知識)

② Skill (技・要領)

③ Ability (能力)

ここで、Knowledge, Skillの2つは組織で教育することが出来ますが、Abilityは、教えることが出来ません。

個人が自分で額に汗して出会うものであります。かつて、野村克也監督が、

『四番打者以外は、育てる事が出来るが、四番打者だけは、出会うのを待つしかない』とコメントして

います。組織では、四番打者以外へは、Knowledge Skillを徹底して継続教育して、Abilityに秀でた四番打者を一人配置するのが、肝要であります。

《ボトムアップは教育で、四番打者は出会い》
《成功の予感のにおい

る明快な目標がある》
良いチーム構成とは、適度に分散した卓越性を有する一定レベル以上の集まりでなくてはなりません。良いマネージャーと良いチーム構成があり、自立的に動ける雰囲気が必要です。そして、志が高く明快な目標が掲げられていけば、チームは、全速力で目標へ向かい突き進むことができます。

また、目標には、期限設定が必要です。さらに、目標達成を、チームの誰もが共通のものさしで測れなくてはなりません。しかし、現実には、目標が漠然としていたり、船頭が多すぎて目標が複数設定されていたりしている場合も多いのではないのでしょうか。

《岡目八目の重要性》
岡目八目は、物事に囚われない局外者が、碁の対戦を見ていて、八手(八目)先まで手を読むことが出来る場合があるということを指します。

さて、明快な目標に向かう優秀なチームは、時として、単純な思い違いや、情報を見誤り、誤った戦略をとってしまう場合があります。そして、当事者たちは誰も気づきません。同じ偏った情報に頼ってしまい思考が同期化してしまいが原因です。そこで、利害関係のない別の業界の局外者からのアドバイスやコメントはとても貴重なものとなるのであります。シリコン

・バレーの優良企業の多くは、ホードメンバー(取締役会)の過半数を社外取締役で構成しており、岡目八目の重要性に気づいて、システムとして対応しております。

さて、日本代表監督に就任した、イヴァン・オシムのコメントです『私は、無名でもモラルの高い選手、気持ちの強い選手を選らび、走れない選手は選ばない』四年後のワールド・カップまでのオシム指導は、大きな期待を抱かせます。

《隔週掲載》

さて、明快な目標に向かう優秀なチームは、時として、単純な思い違いや、情報を見誤り、誤った戦略をとってしまう場合があります。そして、当事者たちは誰も気づきません。同じ偏った情報に頼ってしまい思考が同期化してしまいが原因です。そこで、利害関係のない別の業界の局外者からのアドバイスやコメントはとても貴重なものとなるのであります。シリコン

・バレーの優良企業の多くは、ホードメンバー(取締役会)の過半数を社外取締役で構成しており、岡目八目の重要性に気づいて、システムとして対応しております。

さて、日本代表監督に就任した、イヴァン・オシムのコメントです『私は、無名でもモラルの高い選手、気持ちの強い選手を選らび、走れない選手は選ばない』四年後のワールド・カップまでのオシム指導は、大きな期待を抱かせます。

《隔週掲載》

《隔週掲載》

《隔週掲載》

《隔週掲載》

《隔週掲載》